2022 年度前期・後期 授業改善アンケート集計結果に対するコメント
―文芸学部

学部長 林田伸一

2022 年度の授業は、コロナ禍が落ち着きをみせていたことから、原則として対面で行われました。基礎疾患などを持つ学生さんについては、申請して遠隔で授業を受ける特別対応が認められました。

以下、授業改善アンケートを、文芸学部に即して見て行きます。設問の 3 から 10 は教員に対する評価ですが、いずれも 4.5 前後の高い数値を示しています。また、設問２からは、学生さん自身も授業にしっかりと取り組んでいることが窺えます。

設問 14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」は、4.41 と高い数値であることは、授業を提供している教員のひとりとして、嬉しいことです。しかも、「とてもそう思う」が 54.1%に達しています。この設問 14 と比較的高い相関関係を持っているのが、設問 12「この分野への興味・関心が引き起こされた」設問 13「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」です。設問 8「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促していた」との相関は 0.32 で、私が予想していたほどには高い数字ではありませんでした。

「この授業で用いられた授業手法にすべてマークしてください」という質問から分かるのは、文芸学部では、以下の手法を取り入れている授業が全体の平均よりも少し高いことです。すなわち、「質疑応答」「学生によるコメントペーパー」「プレゼンテーション」「グループワーク」「ディスカッション」。他方、外部講師を招聘しての授業は全体平均よりも少なくなっています。

「授業を通じて身についた資質・能力」についての設問では、文芸学部においては、「言語運用能力」が全体平均よりも高いのが例年の特徴で、今回も同様の結果を示しています。そのほかに、「構想力」「柔軟な発想力」「俯瞰力」「プレゼンテーション能力」が全体平均よりも若干高い数値を示しています。他方、「数理的能力」が低く、「課題解決力」も少し平均より低くなっています。

以上